

鱸名

比女智魚。夏月雜肴中交來於魚市。大五六寸形似鱸而身過半赤如血肉白柔。

〔新撰字鏡〕魚須落胡反。鮓於業反埋藏便。鮓須臾須々支。

〔本草和名〕鱸須落胡反。俗名鱸鮓出崔。和名須須岐。

〔倭名類聚抄〕龍須落胡反。崔禹錫食經云。鱸音盧。和名貌似鯉而鰓大開者也。四聲字苑云。似鱸而大青色。

〔類聚名義抄〕魚須。鱸今正音盧ス。鱸音枯セヒ。鱸今或正ス。

〔伊呂波字類抄〕動須。鱸ス。鱸ス。俗名鱸鮓出崔禹。

〔下學集〕鱸氣形。鱸松江鱸魚巨。鱸鱸。

〔日本釋名〕鱸。其身白くしてすゞぎたるやうにきよげなる魚なり。其小なるを松江と云。せいごなり。もろこしの松江スガガのすゞきは、日本の鱸より小なりと云。是せいごなるべし。

〔東雅〕鱸鱸ス。鱸ス。我國太古の世にありて、魚名聞えし事。此物よりさきなるはあらず。

れど又スゞキと云ひし義の如きは聞ゆべくもあらず中略。出雲國風土記には、波多須々支支といと見えしに、よりぬればスゞキと云ひし事の縁も、自ら明かなるに及ばれば、か古語にスゞキといひしと見えたり。

〔古事記〕水戸神之孫櫛八玉神爲膳夫。獻天御饗之時中略。地下者於底津石根燒凝而栲繩之千尋。繩打延爲釣海人之口大之尾翼訓鱸云。佐和佐和此五字。控依騰而打竹之登遠々登遠々此七。

〔古事記傳〕口大は、大口を寫誤れるなるべし。萬葉に狼をも大口オホクチノマ乃眞神マカミとつゞけ云り、さて

鱸の形をば、漢籍どもにも巨口細鱗といへり。

〔萬葉集〕三。栞本朝臣人麻呂羈旅歌。荒栲藤江之浦爾鈴寸釣。白水郎跡香將見旅去吾乎。